

名古屋第一赤十字病院の取り組み

育児をする女性医師のキャリア支援は、各診療科の理解と配慮があつて可能になる。

名古屋第一赤十字病院は、昭和12年4月に開設され、主に名古屋市北西部および尾張地区西部の高度急性期医療を担っています。「地域完結型医療」を目指し、関連医療機関と密接な連携のもと、地域の医療を担い、医療の過疎化や偏在化など医療機能に支障をきたしている自治体病院や県外赤十字病院に医師の派遣も行っています。

Voice

当直の免除、子どもが6歳になるまでの育児短時間制など、子育て中の女性医師に対して柔軟な労働環境を診療科ごとに整備しています。これまでに7名の女性医師が育児短時間制度を活用しました。



PROFILE

新美孝 業務部長
所属：管理局

主な取り組み

- ① 時間外、当直、日直免除
- ② 代務医師配置
- ③ 24時間対応院内保育
- ④ 病児・病後児保育

PROFILE

名古屋第一赤十字病院
病床数：852床（一般 852床）
診療科：内科、腎臓内科、内分泌内科、血液内科、神経内科、循環器内科、呼吸器内科、消化器内科、小児科、消化器外科、乳腺・内分泌外科、血管外科、心臓血管外科、呼吸器外科、小児外科、形成外科、整形外科、脳神経外科、皮膚科、泌尿器科、女性泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻いんこう科、麻酔科、リハビリテーション科、放射線科、歯科、歯科口腔外科、病理診断科、救急科、臨床検査科、化学療法内科

〒453-8511 名古屋市中村区道下町3丁目35番地
TEL:052-481-5111(代) FAX:052-482-7733(代)
URL: <http://www.nagoya-1st.jrc.or.jp/>

DATA (平成26年10月1日現在)

- 医師数：295名（うち女性医師96名）
常勤医：225名（うち女性医師65名）
非常勤医：24名（うち女性医師14名）
臨床研修医：46名（うち女性医師17名）
- 育児休暇取得実績：平成23年度6名
平成24年度4名
平成25年度5名



Topics 01

身近な存在の女性医師を通して、自分に合ったキャリアプランを。

名古屋第一赤十字病院には1学年22名の初期臨床研修医が在籍し、次年度は22名のうち9名の女性研修医が研修を開始する予定です。女性指導医や女性後期研修医も多数在籍しており、女性医師が活用できる制度について情報を共有し、ワークライフバラ

ンスについて一緒に考える機会もあります。キャリアプランについても身近な存在である後期研修医から実際の経験をもとにアドバイスがあり、自分に置き換えて初期研修後のキャリア計画を立てることも可能です。



想像以上に大変な仕事と家庭の両立は、 周りからの理解が得られて可能になる。

仕事と家庭の両立に、自信を喪失。

医師として働く父親の姿を見て、医師になりたいと思いました。出身大学である札幌医科大学は麻酔科に力を入れている大学です。その先生方に教えていただいた内容に興味を持ったこと、女性の麻酔科医の方が結婚・出産後もいきいきと働いていた姿を見て麻酔科を選びました。

大学卒業と同時に結婚し、2年目に第1子を妊娠。ちょうど初期研修が終わる頃に出産しました。その後、ご縁があった名古屋第一赤十字病院の横田部長に紹介していただき、3年目にこちらに赴任してきました。

復帰後の後期研修中は勉強に時間を掛ける予定でしたが、家庭のこととの両立が難しく、思うように時間がとれませんでした。フルタイムで当直も月に3回入っていた時期は、家庭のことが疎かになり、「医師を辞めるべきなのか」と自信をなくしたこともあります。そこで横田部長に相談したところ、育児短時間制度を利用できることになりました。



PROFILE

高川奈央 医師
所属：麻酔科
出身大学：札幌医科大学
医師歴：卒後9年目
初期研修先病院名：札幌医科大学附属病院

勤務形態を変えることで手術に最後まで責任を持てるように。

週3日9時から17時までの勤務は3年前からです。また、現在は当直を免除してもらって勤務形態で働いています。毎日少しずつ時間を短くするのはなく、出勤日を減らした勤務なら、手術1件をきちんと最後まで責任を持って見ることができると、この勤務形態を選びました。

この病院では産休と育休を最大で3年間とることが可能です。院内保育所も病院の建て替えと同時に開設。最初は少し手狭な保育室でしたが、バースセンター棟に移転した今ではとても広く綺麗な保育所になりました。ここでは病児保育も行っているのですが、子どもの体調が優れない時や急な発熱で保育園に預けることができない場合に助かっています。育児短時間制度の他に、部分休業制度もあり、子育てをしながら働く女性に配慮した職場環境だと思っています。



これからは子育てをする女性医師を支える側になりたい。

これからは、子育てをしながら働く女性医師の方が増えてくると思います。麻酔科医の場合は、主治医の診療科と違い、どうしても都合が合わない時には、他の医師に交替してもらうことができます。しかし外科医の場合は、自分の受け持つ患者さんの手術をキャンセルすることはできません。

そのため、今後はワークシェアができる病院のシステム作りや、ワークシェアをしても他の同僚医師に負担が掛からないよう十分な人材の確保ができるようになって欲しいです。そうならば、女性医師が働きやすい環境になり、キャリアの継続がしやすくなると思います。

私が仕事と家庭を両立できたのは、病院の配属や横田部長をはじめとする同僚医師の手助けがあったから。今後は、子育てが一段落した私のような女性医師が、次に子育てをしていく女性医師をサポートできるようになれたらいいなと考えています。

女性医師の頑張りを男性医師にも理解してほしい。

女性医師がキャリアを継続していくためには、選択をしなければならぬ場面が多くあります。それでも子どもを授かるチャンスがあるのなら、出産することを勧めたいです。子育ては人生においての貴重な体験になり、子どもから教わることも多く、人間として大きく成長させてくれると感じています。

研修医だった頃は、定時で帰る女性医師の姿にマイナスの感情を抱いたこともありましたが、しかし仕事と家庭の両立を自分が実際にしてみると、とても難しいことを実感。働きたくても働くことができないもどかしさも感じました。女性医師が優しく患者さんに接している裏には、保育園まで必死になつて子どもを迎えに行き、家事や育児に奮闘している姿があったのです。これをきっかけに、将来女性医師の同僚やパートナーになりうる男性の医学部生や研修医の方も、子育てをしながら働く女性医師への理解が深まることを願います。



結婚・妊娠・出産など、 将来の人生設計を考えた 選択が必要。

私たちが医学部生だった頃に比べて、今は女性の医学部生の比率が大分上がってきました。しかし、折角頑張つて医師になつても、結婚を機に医師を辞めてしまうのは残念なことです。国としても医師不足が深刻な問題となり、様々な制度を整えてきているので、それを活用して医師としてのキャリアを継続していつて欲しいと思います。それが引いては医師不足を解消することにつながっていくのではないのでしょうか。また、病院や経営者にもこの問題に対する対応を進めていただけることを期待しています。

女性医学部生のみなさんは、「いつかは結婚したい」と考えていると思います。しかし結婚し、子どもが生まれると、どうしても仕事と家庭の両立というワークライフバランスが問題になります。「この診療科の医師になりたい」。その気持ちだけで、診療科を選ぶ医学部生の方が多いいと思います。でも実際に希望した診療科に入つてみると、仕事と家庭の両立が困難で、医師を辞める選択をしてしまうかもしれません。そうならないために、女性医学部生の方は結婚・出産・育児を自身のキャリアプランの中で重大な問題になりうると思えて考えてください。仕事と家庭を両立することが可能なかを勘案して、研修先の病院や希望する診療科を決めることも大切なことだと思います。



PROFILE

横田修一 医師
所属：麻酔科 部長
出身大学：長崎大学
医師歴：卒後25年目

名古屋市立大学病院の取り組み

女性医師に限らず、みんなが働きやすい環境。復職支援プログラムで現場復帰を後押し。

名古屋市立大学病院は昭和6年の開設以来、名古屋エリアの中核医療機関として、高度かつ安全で開かれた医療を提供してきました。名古屋市立大学には医学部の他に、薬学部、看護学部、分子医学研究所などの医学・医療系の学部と研究所があり、それらと協力して学生実習、卒後研修、医療の提供を行っています。

Voice

男女共同参画推進センターが中心となって医師を含む全教職員のワークライフバランス環境の整備を進めています。



PROFILE

大橋達哉 係長
所属：管理部事務課事務係

主な取り組み

- ① 時間外、当直、日直の免除
- ② 代替医師配置
- ③ 始業時間の調整
- ④ 男女共同参画推進センター
- ⑤ 病児・病後児保育
- ⑥ 復職支援・研修プログラム

PROFILE

名古屋市立大学病院
病床数：808床（一般772床、精神病床36床）
診療科：総合内科・総合診療科、消化器内科、肝・膵臓内科、呼吸器・アレルギー・リウマチ内科、循環器・心療内科、内分泌・糖尿病内科、血液・腫瘍内科、神経内科、腎臓内科、消化器・一般外科、呼吸器外科、心臓血管外科、小児・移植外科、乳腺内分泌外科、整形外科、産科婦人科、小児科、眼科、耳鼻いんこう科、皮膚科、泌尿器科、精神科、放射線科、麻酔科、脳神経外科、歯科口腔外科

〒467-8602 名古屋市瑞穂区瑞穂町字川澄1番地
TEL:052-851-5511(代) FAX:052-851-4801
URL: <http://w3hosp.med.nagoya-cu.ac.jp/>

DATA (平成26年10月1日現在)

- 医師数：418名（うち女性医師95名）
常勤医：205名（うち女性医師25名）
非常勤医：181名（うち女性医師53名）
臨床研修医：32名（うち女性医師17名）
- 平成26年度産休中の医師：4名
- 育児休暇取得実績：平成23年度4名
平成24年度5名
平成25年度5名
※非常勤医を含む
- 育児短時間勤務制度を利用する医師：1名



Topics 01

男女共同参画推進センターが、ワークライフバランスを考える。

名古屋市立大学では平成20年に大学での男女共同参画を推進する「男女共同参画室」を設置しました。平成23年には、文部科学省人材育成補助事業「女性研究者研究活動支援事業」に採択されたことを受け、「女性研究者支援室」を設置。女性医師を含む女性研究者が出産・子育てなどのライフイベントと研究・診療を両立するための環境整備や意識改革、病院を含む大学内の各部署における女性教員比率の数値目標達成に向けて活動する「ポジティブ・アクション」に取り組んでいます。

平成26年4月に「男女共同参画室」と「女性研究者支援室」を統合し、新たに設けた「男女共同参画推進センター」が中心となり、女性医師を含む教職員のワークライフバランス環境を整備。また、女性研究者ランチミーティングなどの開催を通じて、女性医師と女性研究者のニーズを掘り起こし、新たな施策につなげています。



Topics 02

復帰に対する不安を和らげる、学び直し講座を開設。

医師不足が深刻化する現在、急速に進歩する医療に対応できる人材育成と高度な専門知識に基づいた看護、介護、運動療法などへの対応が必要とされています。しかしその一方で、育児や家事、介護のために離職した女性医師、看護師などは日々進歩する医療技術を習得する機会が少なく、知識や技術に対する不安を抱え、職場復帰に踏み出せない方も多くいるのも現状です。

そこで名古屋市立大学では、「名市大 医療・保健 学び直し講座」という医療の現場を離れていた方を対象にした復職支援プログラムを実施。この講座では、学校教育法に基づく履修証明書を取得できる高度な再教育プログラムを提供しています。

必要な条件を満たした方には、名古屋市立大学より「受講修了書」を発行しています。4科目8単位以上の受講修了者の中で希望する方には「履修証明試験」を受験し、合格者には学校教育法に基づき「履修証明書」の発行をすることで、新たに採用する病院側の安心材料にもなります。



常にベストを尽くし、後悔しない選択を。 休業期間があっても、復帰することはできる。

周囲の協力もあり、結婚や出産は、意外と問題にはならなかった。

卒業7年目の大学院在学中に結婚し、その2年後に出産。産後は2カ月より少し早く大学院に復帰していたと思います。私が学生だった頃は、結婚した後でも仕事で活躍する女性医師があまりいない時代でした。「結婚や出産が自分のキャリアにマイナスになる」。そう考えていましたが、実際に自分が経験してみると「何とかなるものだな」と思いました。

大学院を修了してからも、他の医師と同様の勤務時間。朝は7時30分からカンファレンスが始まり、遅い時には21時に仕事が終わります。週5日勤務で、平日の当直当番と休日の当直当番が別のサイクルで回ってくる勤務形態は現在と同じです。

当時の時代背景もあって、自分が休むことによって、他の医師に負担が掛かってしまうと思い、時間短縮などの勤務形態については考えていませんでした。でも、私はフルタイムで働くことが許される環境や周りからの協力のおかげで医師を続けてこられました。



PROFILE

山下純世 医師
所属:循環器内科 病院講師
出身大学:名古屋市立大学大学院
医師歴:卒後21年目
初期研修先病院名:名古屋市立大学病院

「医師は一生勉強」、恩師の言葉が、研修医時代の私を支えた。

私の子どもが小さかった時は、まだ今のようないん院内保育所はなく、学内の保育所に看護師さんは入れませんが、医師は対象外。周りの協力を得て、自宅近くの幼稚園に通わせました。その後、病院で働くすべての職員が預けることが可能となり、徐々にそういった仕組みが整えられてきたと思います。

私は研修医時代に2カ月入院をしていた時期があり、自分は医師になれないかもしれないと考えたことがあります。「医師というものは一生勉強だから、少しの遅れは問題ではない。だから自分のペースで頑張ればいい」。研修を回るグループのトップだった医師にこの言葉を掛けていただいたことが、出産でのプランクを気にせず、今も医師を続けていられる大きな要因だと思います。病気で休んでも、無事研修をすべて終え、内科医の認定医と循環器の専門医の資格も取ることができた経験があったから、結婚や出産でのプランクはそこまで気にならなかったんだと思います。

常に努力を続け、進むべき道を切り開く力が医師を続ける力になる。

医師を続けていく上で大切なのは、自分で道を切り開いていくことだと思います。男女関係なく自分が得た知識で仕事をしていくことができる分野の職業なので、とにかく努力し続けること。「枠に囚われず、しなやかに対応してほしい」。女性医学部生の方には、そう言いたいのです。

同級生の中でも辞めてしまった優秀な方がいて、もったいないと感じました。結婚・出産で医師を辞めてしまう人が多くいますが、辞めていた期間が長くなれば復帰も難しくなります。私自身は自分が努力したというより、周りに助けられたという気持ちの方が大きい。その都度自分の中で、今の自分でできることを選択した結果がここにあると思います。「結婚したから働けない」と決めつけずに、やりたいことに向かって努力をしていけば、必ず医師を続ける道が切り開けるはずですよ。

現場に復帰するきっかけとして、 周りが声を掛けてあげることでも大事。

教授に魅力を感じ、診療科を選んだ。

将来自分が就く職業について、高校生ぐらいまでは、医師は進路選択に入っていませんでした。でも、漠然と小さい頃から何かの「先生」という職業に憧れていました。元々、科学全般に興味があったこと、人と話をするのが好きだったこと。さらに女性でも続けていける職種だと思ったので医師になりました。

耳鼻いんこう科を診療科に選択したのは大学6年生になってから。私の頃は、大学を卒業するとそのまま診療科に入局するか、研修医制度をしている病院に入るかのどちらかでした。私は直入局を選択したので、6年生の夏までには診療科を決定しないといけないと思っていました。いろいろな診療科の選択肢から教授の授業が興味深く、教授のアグレッシブな人間性が魅力的であったこと、また耳鼻いんこう科は外科的な領域も内科的な領域もあり、感覚器を扱う細やかなところが多く面白いと思いい、耳鼻いんこう科に決めました。



PROFILE

蒲谷嘉代子 医師
所属:耳鼻いんこう科 助教
出身大学:名古屋市立大学
医師歴:卒後14年目
初期研修先病院名:名古屋市立大学病院

大学病院だからこそ復帰後も最新の知識に触れ、遅れを取り戻せた。

1人目を預けていた自宅近くの認可保育園は6カ月時からしか預けられないため、2人目は最初院内保育所に預けました。ここの保育所はおやつが全部手作り。離乳食を始める時にもアドバイスをしてくれました。家での過ごし方をノートで連絡すると、きちんと返事を書いてくれ、ケアが行き届いた保育所だったのが印象に残っています。

現在は8時30分から17時までの勤務で、当直は免除。毎週ではありませんが土曜日の日直をしています。また、受け持っている入院患者の様子を見るために、土日でも1、2時間は病院に來ています。

復帰時の知識面での不安に関しては、大学病院では常に最先端の知識に触れることができること、医師になって5、6年経ってから産休に入ったことにより、臨床に触れている間に自然に取り戻すことができました。技術面では久々に手術等は周りの医師に声をかけていただき、一緒にやったり、見守っていただいたりしています。

女性医師の相談にのり、アドバイスを贈ることが、今の私の役目でもある。

現在は医局の一員として、復帰時期を決めずに休んでいる医師に対して積極的に声掛けをしています。何か特別なきっかけがないと、復帰するのがなかなか難しいので、休む前にいつ復帰するのかを宣言すると、復帰しやすいと感じます。また、周りで妊娠している医師に「保育所は出産前に探しておいた方がいいよ」とアドバイスすることも。他の病院で産休に入る女性医師と話す機会があった時には「出産後も医師として働けますか」と相談されることもあります。

耳鼻いんこう科医には手術を極める人もいれば、私のようにマイペースで働く人もいて、開業医となる人もいます。その点では選択肢が多い科です。また、子どもの患者さんの割合が比較的多い診療科なので、子どもへの対処に慣れている女性医師の方に向いています。小児科と迷っている医学部生の方には、ぜひ耳鼻いんこう科も選択肢にして欲しいと思います。

大同病院の取り組み

女性医師が働き続けられるように、職場環境をみんなに変えていく。

名古屋市南区に位置する大同病院は上昇志向が強く、日々発展を続ける中核的医療機関です。子どもを産んで、子育て中の女性医師の方でも、家庭と仕事をしっかりと両立できる環境が整えられています。安心して医師が力を伸ばすことができるよう、柔軟に対応している病院です。

Voice

医師、看護師、事務職員が同じフロアにいるので、意見交換がしやすく、風通しの良い職場です。病院内にある委員会を通して、より良い職場環境にするための様々な提案がされています。また委員会以外からも意見が出されることもあります。



PROFILE
清水圭祐 主任
所属：事務局総務課

主な取り組み

- ① 24時間、土日祝日対応の院内保育
- ② 病児保育
- ③ 時間外、宿直、日直の免除
- ④ 短時間正社員制度を導入
- ⑤ 個々に合わせた勤務日数

PROFILE

社会医療法人 宏潤会 大同病院
病床数：404床(一般病床394床、結核病床10床)
診療科：総合内科、血液・化学療法科、糖尿病・内分泌内科、腫瘍内科、循環器内科、呼吸器内科、消化器内科、内視鏡内科、神経内科、腎臓内科、膠原病・リウマチ科、放射線科、精神科、外科、消化器外科、呼吸器・血管外科、乳腺外科、脳神経外科、整形外科、麻酔科、麻酔科(ペインクリニック)、リハビリテーション科、小児科、小児アレルギー科、内分泌小児科、呼吸器小児科、産婦人科、泌尿器科、耳鼻咽喉科、眼科、皮膚科、救急センター、臨床検査科、病理診断科、歯科、歯科口腔外科

〒457-8511 名古屋市南区白水町9番地
TEL:052-611-6261(代) FAX:052-614-1036
URL: <http://www.daidohp.or.jp>

DATA (平成26年10月1日現在)

- 医師数：117名(うち女性医師30名)
常勤医：85名(うち女性医師20名)
非常勤医：21名(うち女性医師6名)
臨床研修医：11名(うち女性医師4名)
- 平成26年度産休中の医師：2名
- 育児休暇取得実績：平成23年度1名
平成25年度3名
- 育児短時間勤務制度を利用する医師：1名



Topics 01

女性医師の積極的な雇用は、病院や患者の利益に。



小学校入学前の子どもの保育園に預けている場合、夕方はある程度までは子どもを見ても構いません。しかし小学生になり、学童保育に預ける場合は、時間が限られているので、短時間勤務を利用しないといけません。そういった場合には「早く帰ってもいいよ」と上司である医師が声を掛けるような環境になっています。始業時間も子どもを預ける保育園の都合で、8時45分の始業が9時を少し過ぎる医師もいます。また、小さな子どもがいる場合は、早く帰ることが許される状況なら、慣れるまでは短時間勤務で働くこともできます。勤務時間が短い分、給料はフルタイムで働く常勤医師と比べると抑えられますが、理事長の考えに基づく女性医師の積極的な雇用に病院全体で取り組んでいます。女性医師が働ける環境を整えることが、最終的には病院や患者の利益にもつながっていくのです。

Topics 02

性別に関係なく、誰もが「お互い様」、働きやすい環境は自分たちで作る。



女性医師の勤務環境を考える際、一番の問題点は当直の免除や短時間勤務の医師がいることに対して、快く思わない人がいることです。「どうして自分は当直をやっているのに、彼女たちは当直しないのか」。そういったことから職場内での人間関係が悪くなり、働き続けることが困難になってしまうのです。しかし大同病院では、誰もが病気になるように、男性も女性も含め「お互い様」という気持ちを受け入れていく環境があります。女性医師に限らず、今は男性医師も仕事と家庭で忙しい毎日を送っています。仕事の終わって家に帰れば子どもをお風呂に入れたり、休みの日には家族をどこかに連れて行ったり。そのため17時に仕事が終わるとすぐに帰宅する医師もいます。「そういった働き方もある」と受け入れていく雰囲気になっていくのです。子育てに限らず、病気や怪我など誰もが社会的弱者になった時に働き続けられる環境を、自分たちで作っていきます。

個々に合った勤務形態と院内保育の充実が、女性医師の働き方を支えている。

求めていた環境が、ここにはあった。

医師だった両親を見て「医師なら女性でも長く働ける」という点に魅力を感じました。医師になって3年目の名古屋市立大学にいた時に、外来の手伝いとして大同病院に行く機会がありました。私が今、子育てをしながら働き続けることができてるのは、その時に大同病院の水野美穂子医師に出会えたからです。結婚後は、乳児検診や成人の健康診断などをする非常勤として勤務。妊娠・出産後は、名古屋市立大学の障害児施設の医師として正式復帰しました。しかし、その施設には医師が自分1人しかおらず、急な対応にも限界を感じ、名古屋市立大学の先生に相談。そこで、大同病院で水野医師が女性医師に向けて、働ける女性医師の方、一緒に働きませんか」という呼び掛けを知り、働き方を支えてくれた。水野医師に連絡を取ったところ、「こちらにいらつしやい」と声を掛けていただき、大同病院へ赴任して来ることになりました。

女性医師だけでなく男性医師も働きやすい環境に。

現在は、週4日間、8時30分から17時までの常勤医師として勤務。30分から1時間ぐらいいは残業して、18時過ぎには帰宅します。小学生ぐらいの子どもの持参医師の中には17時ちょうどに帰る人もいます。当直は免除されていますが、仕事内容は他のフルタイムで働く常勤医師と同じです。

周りには若い男性医師も多く在籍。そのため子どもが熱を出した時に、母親の都合がつかない場合には、父親である男性医師が早く帰ることもあります。水野医師の力もあって、女性医師だけでなく、みんなが働きやすい職場環境になっていきます。また、院内保育所や病児保育所が院内にあるので、子どもの体調が良くない時にはとても助かっています。個々の子育て中の女性医師に合わせた勤務日数も配慮されており、医師として復帰しやすく、働きやすい職場です。



PROFILE
後藤紀子 医師
所属：小児科
出身大学：福島県立医科大学
医師歴：卒後18年目
初期研修先病院名：仙台市立病院



大同病院へ赴任した時には、障害児施設とは仕事内容が違うことも心配でした。しかし、外来診察では何かあればすぐに相談できるようなと、最初は必ず上級医師や指導医の隣の診察室で診察を担当。病棟勤務の場合でも、決して1人で抱え込まず、すむように配慮してもらっています。救急外来の対応でも「ちよつと1人では無理」となった時には、みんなが助けに来てくれます。チームワークが良く、みんなが支え合う環境があったからこそ、復帰直後も今も安心して働くことができます。

みんなでフォローし合えれば、女性医師が働ける環境はきつとある。



後藤医師のような働き方も理解してもらえればと思います。当直明けの医師が次の日に早く帰れるように、彼女たちが日中に働くというような役割分担ができれば、きつと働ける女性医師は多くいるはず。結婚・出産後は一体どんな風に働けるのか。誰もが不安に感じます。一度キャリアが空いてしまうと、復職するのは簡単ではありませんが、人それぞれ違った働き方があるはず。そのため産休や育休などの制度を利用して、働き続けることを諦めないで欲しいと思います。

働き方への理解が、女性医師の役割の幅を広げていく。

医師の仕事は日常の業務だけに限らず、つねに勉強や研究が必要です。その中でも、体調が悪い状態から回復すると、目に見えて元気になる子どもを見守る小児科は、やりがいのある科だと思います。また、そういったことが医師としての喜びにもつながると考えられます。働き方については、「フルタイムで働けるか」「働けないか」ではなく、

役割分担をすれば女性医師が活躍できる場所はある。

私が若手だった頃は、女性医師が結婚や出産を機に退職することが当たり前だった時代。それでも私は辞めるつもりは全くありませんでした。今みたいに出産後に女性医師が復帰することは少なく、私が出産後1カ月ぐらいいで復帰したときには、当時の医局長に「え、復帰するの？」と言われたぐらいです。当時はそこまで子育てをする環境が整っておらず、医師を続けるた

めに夫の実家に同居し、育児の協力を依頼。決して医師の仕事との両立という立派な感じではありません。周りに支えられたからこそ続けてこられました。小児科も医師が2人という体制から始まり、一度は医師が増えたのですが、その後再び減少。外来や予防接種センターなどの膨大な業務の中で、少人数で分担していくことは困難です。そこで当直はしなくてもいいから、昼間の外来患者や病棟を診てくれる女性医師を募集する告知を「医局だより」に掲載。そこで応募してくれたのが後藤医師でした。

現在、小児科にいる13名の医師の中で、当直ができるのは8名。他の5名は当直ができなくても日曜や休日に働いてくれています。当直ができなくても、働ける範囲で働いてくれれば十分力を発揮してくれます。小児科医が足りないと言われていますが、主な仕事は9時〜17時の時間をみんなで見れば、後には当直医が対応するので、そこをいかにフォローしていくか。そんなふうに関わり合えば、女性医師が働ける環境はきつとあるはず。



PROFILE
水野美穂子 医師
所属：大同病院副院長 小児科部長
出身大学：岐阜大学
医師歴：卒後30年目
初期研修先病院名：名古屋市立大学病院